

研究員の眼

世界的な株高で流入鈍化か

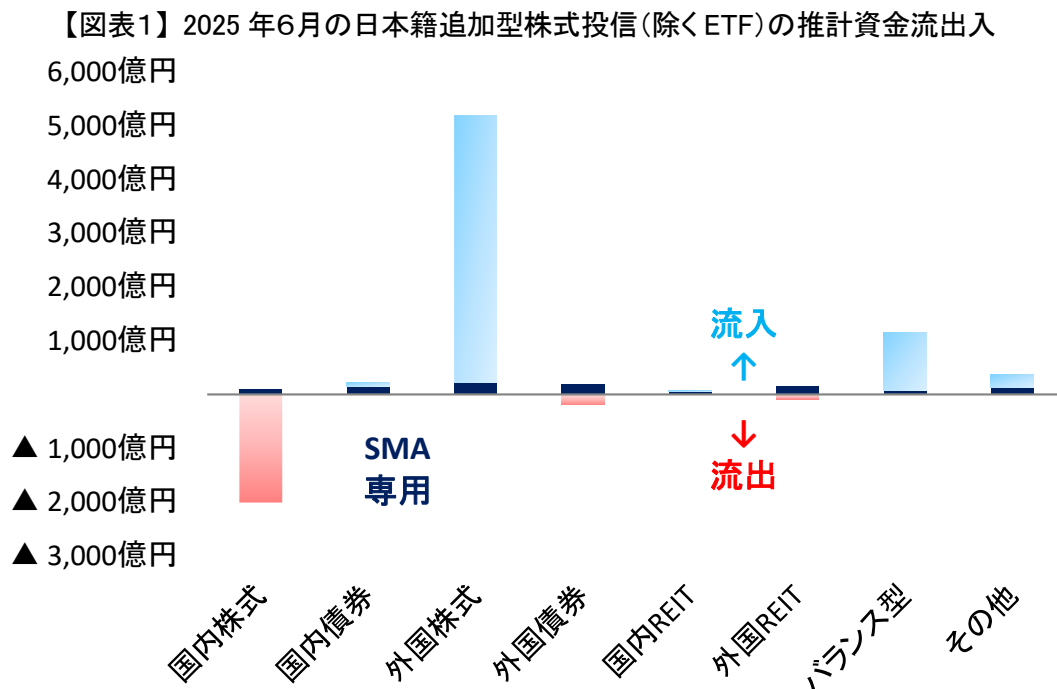
～2025年6月の投信動向～

金融研究部 主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

外国株式ファンドへの資金流入が急減

2025年6月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入を見ると、6月は外国株式ファンドに5,200億円の資金流入があった【図表1】。5月の9,200億円から4,000億円の減少となり、資金流入が急激に鈍化した。

一般販売されている外国株式ファンドをタイプ別に見ると、インデックス型には4,600億円、アクティブ型には400億円の資金流入があった。インデックス型は5月の6,400億円、アクティブ型は同2,200億円から減少し、新NISAが開始された2024年以降で最小となった。



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類などを用いてファンドを分類。

【図表2】2025 年6月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	5月の 流出入	6月の推計 純流入	純資産 6月末時点
1位	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UAM	1,611億円	1,452億円	6兆3,590億円
2位	インベスコ 世界厳選株式オープン<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	インベスコ	1,026億円	1,115億円	2兆2,276億円
3位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UAM	1,419億円	1,034億円	7兆4,156億円
4位	ビクテ・ゴールド(為替ヘッジなし)	ビクテ	237億円	331億円	3,442億円
5位	フィデリティ・グロース・オポチュニティ・ファンド D(毎月・予想分配・ヘッジ無)	フィデリティ投信	106億円	249億円	2,769億円
6位	三菱UFJ 純金ファンド	三菱UAM	94億円	194億円	4,218億円
7位	たわらノーロード 先進国株式	AM-One	150億円	178億円	8,264億円
8位	楽天・プラス・S&P500 インデックス・ファンド	楽天投信	211億円	168億円	5,816億円
9位	フィデリティ・欧州割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	フィデリティ投信	132億円	155億円	405億円
10位	楽天・プラス・オールカントリー株式インデックス・ファンド	楽天投信	164億円	150億円	4,005億円

(資料) Morningstar Direct より作成。SMA、DC 専用ファンドは除く。

6月も引き続き米関税政策の動向などに不透明感があったものの、世界的に株価が上昇した。株価上昇を受けて、多くの外国株式ファンドの基準価額が上昇した。そのため、以前に人気を集めたものの最近では売却基調が続いていたアクティブ型の外国株式ファンドでは、利益確定の動きが強まり、6月に流出が加速したファンドも多かった。

実際にアクティブ型の外国株式ファンドの中で、1カ月間に100億円以上資金流出があったファンドは、5月には存在しなかったが、6月には5本に達した。6月に5月を上回る流入を記録したファンド(赤太字)もあり、一般販売されているアクティブ型全体でみると400億円の流入超過となったものの、流入額は5月から大幅に減少した【図表2】。

インデックス型の外国株式ファンドでも一部売却の動き

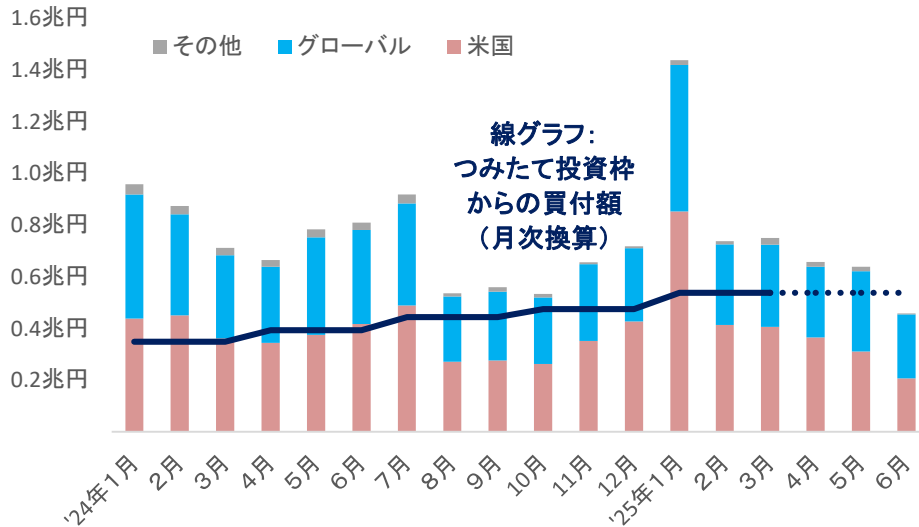
さらに、一般販売されているインデックス型の外国株式ファンドも、全体の流入額は4,600億円とアクティブ型と比較して6月も大きかったが、利益確定の売却が膨らんでいた可能性がある。

元々、インデックス型の外国株式ファンドはNISAの中心商品となっており、NISA口座から買付によって資金流入が底上げされている。特につみたて投資枠は毎月安定した買付があり、さらにNISAの口座数の増加も相まって、買付額は緩やかに増加基調である。

実際につみたて投資枠からの買付は、新NISAが開始された2024年1－3月には四半期で1兆円程度であったが、2025年1－3月には1兆6,000億円を超えている。月次換算すると、2024年初は月3,500億円程度であったのが、2025年に入ってから5,000億円を超える規模となっている【図表3：線グラフ】。この買付の大半は、インデックス型の外国株式ファンドに流れている。さらに、つみたて投資枠では2024年に年間の買付額が4兆9,700億円だったのに対して売却が1,800億円しか出でず、基本的にバイアンドホールドされている。

一般販売されているインデックス型の外国株式ファンドの流入額は、6月につみたて投資枠からの買付額を下回ったとみられる。これは、2024年以降で最小となったこと以上に、注目すべき変化である。つみたて投資枠以外にも、成長投資枠やNISA口座以外の確定拠出年金などからの買付もあることを踏まえると、6月はインデックス型の外国株式ファンドにおいても売却が増加したことが背景にあるだろう。

【図表3】インデックス型の外国株式ファンドの資金流出入と
NISA 口座のつみたて投資枠からの買付額



(資料) 金融庁資料、Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除外、2025 年 6 月のみ推計値。
つみたて投資枠からの毎月の買付額は各四半期の買付額を3分の1している。

なお、一般販売されているインデックス型の外国株式ファンドの中では、米国株式の指数に連動するファンド（【図表3】赤棒）が2,100億円の流入と、5月から1,000億円減少し流入鈍化が顕著であった。6月の21営業日のうち5営業日は売却超過となるなど、売却の動きが目立った。

2024年は、夏のボーナスを原資にした買付が入ったためか、7月には最大となった1月に迫る規模の資金流入がインデックス型の外国株式ファンドにあった。2025年も夏のボーナスを原資にした買付が入るかもしれないが、足元も引き続き利益確定の売却が進みやすい状況である。S&P500種株価指数が史上最高値を連日更新するなど、米国株式を中心に外国株式は堅調に推移している。そのため、インデックス型の外国株式ファンドの資金流入の鈍化が一時的なのか、今後の販売動向が注目される。

国内株式も売却が続く

また、国内株式ファンドは6月も1,900億円の資金流出があり、株価の上昇基調が続く中で2カ月連続の流出、5月の1,700億円からやや拡大した。特に、日経平均株価が3万9,500円台まで上昇した26日や4万円に乗せた27日にインデックス型を中心に売却が進んだ。

一方で、バランス型ファンドには6月も5月とほぼ同規模の1,100億円の資金流入があり、販売は比較的、堅調だったようだ。さらに主要資産クラス以外の「その他」ではあるが、金関連ファンドにも2本（【図表2】青太字）を中心に800億円の資金流入があり、5月の500億円から増加した。

ただ、ファンド全体で見ると外国株式ファンドの流入減少が大きく、5,200億円の資金流入と5月の9,000億円から3,800億円減少し、ファンド全体としても2024年以降で最小となった。

半導体関連ファンドが2カ月連続で好調

6月は、世界的に株価が上昇する中、内外問わず半導体関連（赤太字）などハイテク系のテーマ型の株式ファンドの中に特に高パフォーマンスをあげるものがあった【図表4】。

【図表4】 2025 年6月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	6月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 6月末時点
1位	ニッセイ・S日本半導体株式インデックスファンド<購入・換金手数料なし>	ニッセイAM	18.9 %	---	11 億円
2位	インベスコ 世界ブロックチェーン株式ファンド	インベスコ	18.5 %	14.5 %	267 億円
3位	インベスコ 世界ブロックチェーン株式ファンド(予想分配金提示型)	インベスコ	18.4 %	29.3 %	80 億円
4位	eMAXIS 日経半導体株インデックス	三菱UAM	17.5 %	---	58 億円
5位	eMAXIS Neo 自動運転	三菱UAM	17.2 %	-2.8 %	105 億円
6位	しんきん日米半導体株ファンド	しんきんAM	16.4 %	---	26 億円
7位	グローバル・メタバース株式ファンド	日興AM	15.9 %	40.5 %	83 億円
8位	NASDAQ100トリプル(マルチアイ搭載)	大和AM	15.7 %	-16.8 %	66 億円
9位	世界半導体関連フォーカスファンド	SBI岡三	15.3 %	-11.0 %	1,446 億円
10位	ニッセイSOX指数インデックスファンド(米国半導体株)<購入・換金手数料なし>	ニッセイAM	14.8 %	-7.7 %	406 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2025 年6月末残高が 10 億円以上の ETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。